

政務調査研究視察 報告書

平成19年 5月 16日提出

視 察 日	平成19年 4月 17日 (火)	
視 察 先	静岡県静岡市	
視 察 内 容	静岡市立清水病院の経営改善について	
視 察 者	蜂須賀喜久好、鈴木 雅登、山崎 憲伸	計 3 名

<静岡市立清水病院について>

現在、自治体の経営する病院は、増大する医療需要と診療報酬改定による慢性的な医師不足と赤字経営に陥っており、岡崎市民病院においても例外ではありません。



そこで17年度計上黒字出した静岡市立清水病院を視察いたしました。

▲ 病院の入り口にて

静岡市は、旧静岡市と旧清水市が合併し、全国で14番目の政令指定都市となりました。

静岡市には静岡病院と清水病院の2つの私立病院があり、清水病院は清水地域(人口24万人)地域の重要な基幹病院であり、22の診療科があり500床を有しています。

清水病院は旧清水市時代からの約25億の累積赤字を解消と、水準の高い医療を提供するためには、安定的な経営基盤の持続的な確保が不可欠であるとの経営目標をかかげ、経営改革をすすめており、その内容の主なものに市の事務職員を40人から27人に削減、病床利用率の向上、診療単価の向上、待ち時間の短縮、医薬品、診療材料の共同購買や見直しなどをすすめ、17年度においては約3億7千万円の純利益を計上いたしました。

また、医師の確保のために、各学会認定医の取得を積極的に行い、また、(財)日本医療機能評価機構認定病院にも指定されています。

しかし、電子カルテはまだ導入しておらず、これからの課題であるとの認識がありました。

〔感想・岡崎市への反映〕

今回、清水病院からの説明の中で、「病院が赤字だと、勤務医のモチベーションが下がる」という話が印象に残りました。

岡崎市民病院においても、赤字を解消することが医師のモチベーションをあげる一つの方策であると思われます。

政務調査研究視察 報告書

平成19年 5月 16日提出

視 察 日	平成19年 4月 18日 (水)
視 察 先	神奈川県川崎市
視 察 内 容	市立川崎病院の経営改善について
視 察 者	蜂須賀喜久好、鈴木 雅登、山崎 憲伸 計 3 名
川 崎 市	<p><市立川崎病院の経営改善について></p> <p>現在、自治体の経営する病院は、増大する医療需要と、診療報酬改定による慢性的な医師不足と赤字経営に陥っており、岡崎市民病院においても例外ではありません。</p> <p>そこで病院改革を断行し、16年度約10億の赤字から17年度約17億7千万円の劇的な黒字を計上した、川崎市立川崎病院を視察いたしました。</p> <p>川崎市は、直営の川崎病院、井田病院、学校法人聖マリアンナ医科大学に指定管理させている多磨病院の3つがあり、川崎病院は733床を持つ中核的な病院です。</p> <p>川崎病院では、市立病院として質の高い医療を将来にわたって提供するために、病院事業の経営組織を効率化して、経営健全化を推進することが必要と考え、平成17年度4月から病院事業に地方公営企業法の規定の全部適用し、医療界で次々に改革を成し遂げてきた武弘道氏を病院の最高責任者の病院事業管理者として迎え入れました。</p> <p>全部適用の効果として、病院事業の業務執行権、及び代表権を有する管理者が設置され、人事、給与、契約の締結等の広範な権限が与えられることにより、意思決定の迅速化、機動的な業務執行、自主性の強化が図られ、効率的な経営組織体制が整備されることにあります。</p> <p>改革の主なものでは、特殊勤務手当等の見直し、医師成績給の試行的導入、これは勤務態度や科ごとの他病院との収益比較などの評価システムです。</p> <p>また、外部委託料が増えても人件費が減らないことにより、一部の業務を再び内部化するなどの見直し、2人副院長制のところを女性看護師のトップを副院長に据えての3人制にすることによる、看護師との連携の強化、現場の医師の意見の反映などが上げられます。</p> <p>医師不足については川崎病院も例外ではなく、各学会認定医の取得を積極的に行いました、(財)日本医療機能評価機構認定病院にも指定されています。</p> <p>その他、研修医を育てることに重点を置き、公費での京都大学派遣や留学制度を設けています。</p>
	<p>[感想・岡崎市への反映]</p> <p>余談であるが川崎病院はテレビドラマの「白い巨塔」のロケ地であったと聞き、感慨深いものがありました。</p> <p>川崎病院はヘラクレスポストという2本の太い柱のみで支えられている非常にユニークな工法で建てられており、その為建設費も非常に高額で一般的な病院が㎡25万円程度であるのに対して、川崎病院は㎡約70万円です。</p> <p>減価償却費の負担もかなりのものであるが減価償却費に対しての市からの繰り入れはなく、それでも17年度には黒字計上していることを考えると、岡崎市民病院の減価償却を市で見るべきであるという議論もあるが安易に行うべきではないと考えます。</p>



▲ 病院の入り口にて